

令和6年度 学校教育努力点について

I 研究主題

自律して学び続けようとする児童の育成

II 研究のねらい

名古屋市教育委員会により「ナゴヤ学びのコンパス」が策定された。策定趣旨として、「名古屋の子どもたちが、今後ますます激しくなる社会の変化を前向きに受け止め、たくましくしなやかに変化を乗り越え、よりよく自らの人生をきり拓いていくためには、自律して学び続ける人に成長していくことが欠かせません。そのためには、大人が子どもの学びに伴走し、子ども中心の学びを進めていくことが大切です。」とある。

本校では昨年度「互いに認め合うことのできる児童の育成」をテーマに実践を行ってきた。「貢献」「承認」「存在感」を意識した学級経営を行うことで、自己有用感の獲得につながり、互いに認め合おうとする児童が増えてきた。その結果、児童同士で声を掛け合って集団で遊んだり、困っている児童に駆け寄って助けたりする姿や、学級の雰囲気がよりよくなるために、自分に何ができるかを考え、友達と協力しながら、学級のためにできることをしようとする姿が増えてきた。

一方、学習面に目を向けると、本校の児童は、与えられた課題に対しては意欲的に取り組むが、自ら課題を見付けようとしなかったり、一度答えを導き出すとそこで満足してしまい、導き出した考えを基にして、さらに考えを深めたりしようとししない傾向がある。「ナゴヤ学びのコンパス」にある、自律して学び続けようとする児童の育成は、本校の児童にとっても課題であると思われる。

以上のことから、自律して学び続けようとする児童の育成をテーマに、本年度の努力点研究を進めていきたいと考えた。

III 研究の内容

「ナゴヤ学びのコンパス」では、自律して学び続ける姿として、「興味・関心に応じ、やりたいことを見付けて取り組む」「学ぶペースや方法、内容などを自己選択、自己決定しながら学ぶ」「学びに見通しをもち、振り返りながら学び続ける」の3つの姿が示されている。本校の児童が自律して学び続けようという思いを高めるためにも、まずは、「興味・関心に応じ、やりたいことを見付けて取り組む」姿を大切にしたいと考えた。そこで、今年度は、学年、学級の実態の違いや児童一人一人の発達段階の違い、また、教科、領域の特性や単元の学習内容を踏まえ、疑問、驚き、興味・関心から、児童の「考えたい」「知りたい」などという思いを引き出すことのできるような授業づくりを目指して、各学年・学級で実践を行うようにする。

「ナゴヤ学びのコンパス」の考えを基に

- 「なんで～？」 「どうして～？」 を引き出す
- 児童の身の回りの生活や体験活動を生かす
- 興味・関心を引き出す などの手立て



自ら、課題を見付けたり考えを進めたりしようとせず、手が止まってしまっている状態



「考えたい！」 「調べたい！」 など
興味・関心に応じ、やりたいことを見付けて取り組むことができる状態
【自律して学び続けようとする姿】

IV 研究の方法

○ 授業実践について

- ・ 全体授業は全員が授業を参観し、研修を深める。今年度は、年1回、6月頃に代表者が行う。教科・領域は問わない。
- ・ 部会授業は5月中旬までに計画を立て、各部会に所属するものがそれぞれ参観し研修を深める。
- ・ 全学年が実践授業を行い、部会ごと（希望者も可）に事後検討会を行う。
- ・ 前の学級で行った実践の手立てを改善して、他の学級で追実践をする形でもよい。
- ・ 事後検討会は、児童の活動の様子、ワークシートやノート等の記述から、手立ての有効性について各部会で検討する。
- ・ 指導案は実践の前日までに全職員に配布する。
- ・ 実践後は、手立てに対する成果と課題をまとめ、プリントとデータを1週間以内に、努力点担当の係に提出する。
- ・ 授業公開に関しては、全職員に公開する。原則として同じ部会の教員は参加することにする。

○ 検証方法について

- ・ 5月と1月に児童の実態調査を行う（部会ごと）。
- ・ 実践後の振り返りや児童の姿から見取る。

○ 研究の報告について

- ・ 各実践後の手立てに対する成果と課題をまとめたものを職員に共有する。さらに、2月に最終報告会を持ち、成果と課題を整理する。
- ・ 年度末に最終報告書を作成する。
- ・ 授業実践後、学年だよりに努力点実践の様子を載せ、保護者に伝える。

VI 今後の予定

- 1 学期：目指す児童像、各学年で実践する時期を決める。代表授業を行う。
- 2 学期：各学年での実践を行う。
- 3 学期：本年度の成果と課題を整理して、次年度の計画を立てる。